



さまざまな分野に貢献するカワタの機器&システム

医薬品  
Pharmaceuticals



食品  
Food



金属  
Metal



プラスチック  
Plastic



化粧品  
Cosmetics



セラミック  
Ceramic



カワタの理想的な粉粒体のハンドリング技術が、幅広い分野と多様なニーズに、お応えしています

KAWATA's ideal powder and particle handling technology meets the diverse needs of a wide range of field.



顔料  
Pigment



液晶用光学フィルム  
Glass for LCD



レンズ  
Lens



建材  
Construction materials



リチウムイオン 二次電池  
Lithium-ion rechargeable battery

WEBサイトのご案内

<http://www.kawata.cc/>



現場第一主義を基本姿勢とし、創業以来培ってきた技術を基に、お客様の生産活動の改善につながる提案と、お客様に喜んでいただける製品・サービスを提供することにより、世界の人々のより豊かで安全な暮らしに貢献します。

代表取締役社長 白石 互

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。ここに当社の第70期報告書をお届けいたします。株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

2019年6月26日

第70期財務ハイライト

売上高 **24,576** 百万円 前年同期比 **20.8%増**

営業利益 **2,304** 百万円 前年同期比 **104.9%増**

経常利益 **2,323** 百万円 前年同期比 **125.7%増**

親会社株主に  
帰属する当期純利益 **1,676** 百万円 前年同期比 **84.3%増**

総資産 **23,781** 百万円

純資産 **9,854** 百万円

一株当たり  
当期純利益 **236.70** 円

一株当たり  
純資産 **1,367.65** 円

## 事業の概況

当期の世界経済は、緩やかながら回復基調でありましたが、中東や朝鮮半島における地政学的リスクや米国の自国第一主義に伴う貿易摩擦並びに英国のEU離脱問題等、景気減速の気配が徐々に強まってまいりました。更に、中国をはじめとする新興国の経済成長率先進国と比較すると高いものの、その拡大テンポは緩やかになっております。年度後半は米中貿易戦争等により全般的に投資が冷え込み、その影響からアジア諸国や欧州でも景気が弱含みしました。

わが国経済は、生産や設備投資は回復基調であり、企業収益や業況判断も改善してきておりましたが、世界経済の景気の減速の影響を受け生産や設備投資には足踏みがみられ、不透明な状況となっております。また、設備投資の動向を知るうえで先行指標の一つである機械受注統計の推移を見ても、製造業の機械受注額は、2018年4～6月は1兆2,835億円(前年同期比17.8%増)、7～9月は1兆2,583億円(同8.5%増)と増加傾向でありましたが、その後足元では10～12月は1兆1,999億円(同

0.6%減)、2019年1月は3,750億円、2月は3,881億円と減少傾向にあります。

このような環境下、当社グループは、プラスチック成形関連のコアビジネスにおきまして、品質の向上、納期の確守、新製品の開発等、競争力強化によるマーケットシェアの拡大を図るとともに、電池、食品、化粧品等の新規販売分野の開拓・拡大に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度における受注高は、年度前半は好調に推移しておりましたが年度後半では減速し、前年同期比15億8千5百万円増(同7.0%増)の241億7千2百万円、受注残高は前年同期比6億3千5百万円減(同9.0%減)の64億3千9百万円となりました。また、売上高につきましては、自動車関連や電子部品関連の需要が堅調に推移したこと等により、前年同期比42億3千9百万円増(同20.8%増)の245億7千6百万円となりました。

損益面では、売上高増加に伴う売上総利益の増加と売上総利益率の改善(29.7%→30.9%)等により、営業利益は前年同期比11億7千9百万円増(同104.9%増)の23億4百万円、経常利益は前年同期比12億9千3百万

円増(同125.7%増)の23億2千3百万円となりました。

特別損益では、中国の生産子会社における旧工場売却時に概算計上した未払増値税等の取崩益(債務取崩益)39百万円を特別利益に計上し、投資有価証券評価損7百万円を特別損失に計上し、更に法人税、住民税及び事業税6億8百万円、法人税等調整額5千1百万円を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比7億6千6百万円増(同84.3%増)の16億7千6百万円となりました。

## 今後の見通し

世界経済は全体としては緩やかな回復基調でありましたが、米国の自国第一主義に伴う貿易摩擦並びに英国のEU離脱問題、中東や朝鮮半島における地政学的リスク等、景気減速の気配が徐々に強まっていき、米中貿易戦争等により全般的に投資が冷え込み、その影響からアジア諸国や欧州でも景気が弱含みしました。わが国経済も、世界経済の景気の減速の影響を受け、設備投資の動向を知るうえで先行指標の一つである機械受注統計の推移を

見ても、製造業の機械受注額は減少傾向にあります。

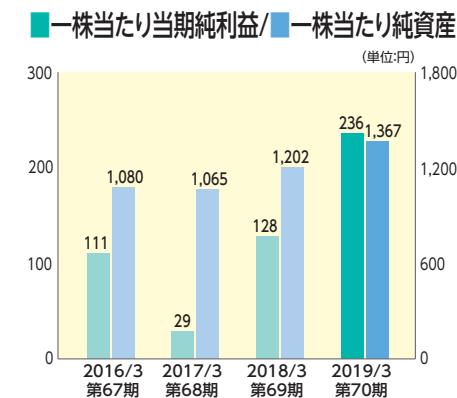
かかる環境下、当社グループといたしましては、競争力強化によるプラスチック成形関連分野でのマーケットシェアの拡大、グループ各社及び業務提携先との相乗効果の発現、コア技術の応用や環境・エネルギー分野への対応強化による新規販売分野の開拓、原価低減強化や諸経費の削減、高付加価値製品の開発による収益力の向上等を中期的に取り組んでまいります。

また、国内外における鉄鋼等の素材価格の上昇、運賃等の高騰、海外における人件費増加等の懸念については、適正な販売価格の維持と製造工程における更なる業務効率化等によりカバーいたします。

次期につきましては日本、東アジア、東南アジア、北中米各セグメントにおける着実な需要を取り込み、利益を確保することにより、売上高210億円、営業利益17億円、経常利益16億5千万円、当期純利益11億9千万円を予想しております。

株主の皆様におかれましては今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 財務ハイライト(連結)



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

区分	前期末 2018年3月31日現在	当期末 2019年3月31日現在
<b>【資産の部】</b>		
Point 1 Point 2 流動資産	16,259	18,228
Point 2 固定資産	5,786	5,552
有形固定資産	4,454	4,258
無形固定資産	400	412
投資その他の資産	931	881
<b>資産合計</b>	<b>22,046</b>	<b>23,781</b>
<b>【負債の部】</b>		
Point 3 Point 4 流動負債	9,610	10,357
Point 4 固定負債	3,769	3,570
<b>負債合計</b>	<b>13,380</b>	<b>13,927</b>
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	7,960	9,452
資本金	977	977
資本剰余金	1,069	1,069
利益剰余金	5,957	7,449
自己株式	△43	△43
その他の包括利益累計額	556	233
非支配株主持分	149	168
Point 5 <b>純資産合計</b>	<b>8,665</b>	<b>9,854</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>22,046</b>	<b>23,781</b>

### Point 1 流動資産

流動資産は、前期末に比べて、現金及び預金、受取手形及び売掛金、商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品が増加したこと等により19億6千9百万円増加し、182億2千8百万円となりました。

### Point 2 固定資産

固定資産は、前期末に比べて、繰延税金資産が増加しましたが、建物及び構築物、機械装置及び運搬具、投資有価証券が減少したこと等により2億3千3百万円減少し、55億5千2百万円となりました。

### Point 3 流動負債

流動負債は、前期末に比べて、支払手形及び買掛金、1年内償還予定の社債が減少しましたが、短期借入金、未払法人税等が増加したこと等により7億4千7百万円増加し、103億5千7百万円となりました。

### Point 4 固定負債

固定負債は、前期末に比べて、社債、繰延税金負債、退職給付に係る負債が増加しましたが、長期借入金が増加したこと等により1億9千9百万円減少し、35億7千万円となりました。

### Point 5 純資産

純資産合計は、前期末に比べて、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定が減少しましたが、利益剰余金が増加したこと等により11億8千8百万円増加し、98億5千4百万円となりました。

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

区分	前期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
Point 6 売上高	20,336	24,576
Point 7 売上原価	14,297	16,977
Point 7 売上総利益	6,038	7,598
販売費及び一般管理費	4,914	5,293
営業利益	1,124	2,304
営業外収益	45	114
営業外費用	140	95
経常利益	1,029	2,323
特別利益	0	43
特別損失	1	9
税金等調整前当期純利益	1,028	2,357
法人税、住民税及び事業税	372	608
法人税等調整額	△259	51
当期純利益	915	1,697
非支配株主に帰属する当期純利益	5	21
Point 8 親会社株主に帰属する当期純利益	909	1,676

### Point 6 売上高

日本・東アジアでの自動車関連、電子部品関連の堅調な推移などを背景に、北中米を除く各セグメントでの売上高が増加しました。

### Point 7 売上総利益

売上高の増加及び材料費を中心とした原価低減による売上総利益率が上昇しました。(29.7%→30.9%)

### Point 8 親会社株主に帰属する当期純利益

中国の生産子会社における未払増値税等の取崩益と法人税等の増加により親会社株主に帰属する当期純利益が増加しました。

### Point 9 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が23億5千7百万円となり、減価償却費2億9千7百万円、退職給付に係る負債の増加8千9百万円、支払利息8千1百万円、仕入債務の増加3千1百万円等の収入要因が、売上債権の増加15億5千万円、たな卸資産の増加4億6千2百万円、法人税等の支払額3億8千万円等の支出要因を上回り、6億9千4百万円の収入超過(前年同期は8億9千8百万円の支出超過)となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	前期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで	当期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで
Point 9 営業活動によるキャッシュ・フロー	△898	694
投資活動によるキャッシュ・フロー	△348	△297
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,369	△206
現金及び現金同等物に係る換算差額	55	△87
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	177	102
現金及び現金同等物の期首残高	4,213	4,391
現金及び現金同等物の期末残高	4,391	4,493

## TOPICS

### 2018名古屋プラスチック工業展に出展

会場：ポートメッセなごや（愛知県） 規模：出展社・団体123、小間数465  
 日時：2018年10月31日（水）～11月2日（金） 来場者数：17,548人  
 主催：日刊工業新聞社、中部プラスチックス連合会  
 （一社）中部日本プラスチック製品工業協会



当社ブースには多くの方が来られ大盛況でした。



当社IoT技術の展示を行いました。



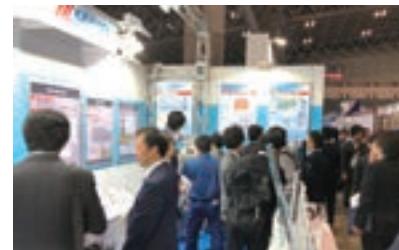
当社IoT技術のセミナーを開催しました。

### 第7回 高機能プラスチック展に出展

会場：幕張メッセ（千葉県） 規模：出展社・団体904、小間数1,407  
 日時：2018年12月5日（水）～7日（金） 来場者数：59,096人  
 主催：リード エグジビション ジャパン(株)



窒素乾燥機のパネルなど、需要深耕を意識した展示を行いました。



数多くの方が来場し、製品の説明を行いました。

### 2019年中期経営計画

2019年5月13日に、当社の中期経営計画を公表いたしました。基本的な考え方、中期経営戦略、目標数値などを掲載しております。詳しくは当社WEBサイトをご覧ください。  
<http://www.kawata.cc/ir/chukei/>

## カワタグローバルネットワーク



### 国内 主な事業所

本社	大阪市西区	静岡営業所	静岡市駿河区
大阪営業所	大阪市西区	名古屋営業所	名古屋市東区
仙台営業所	仙台市太白区	広島営業所	広島市南区
北関東サービス	群馬県高崎市	九州営業所	福岡市博多区
埼玉営業所	埼玉県川口市	三田工場	兵庫県三田市
東京営業所	東京都中央区	東京工場	埼玉県川口市
南関東営業所	神奈川県厚木市	大阪工場	大阪市西成区

(株)サーモテック	大阪市西成区
エム・エルエンジニアリング(株)	静岡県藤枝市
(株)レイケン	東京都中央区
(株)カンゲン	東京都中央区

## 会社情報

### 会社の概要 (2019年3月31日現在)

商号	株式会社カワタ (KAWATA MFG. CO.,LTD.)
本社	〒550-0011 大阪市西区阿波座1丁目15番15号
設立	1951年7月13日
資本金	977,142,640円
従業員数	249名(連結835名) (役員 出向社員 パート 嘱託は除く)

### 役員 (2019年6月26日現在)

代表取締役社長	白石 亙
取締役	白井 英徳
取締役	柴 孝幸
取締役	藤坂 祐宏
取締役常勤監査等委員	城 豊治
取締役監査等委員	伊藤 芳伸
取締役監査等委員	石田 章
取締役監査等委員	飯塚 一雄

## 株式情報

(2019年3月31日現在)

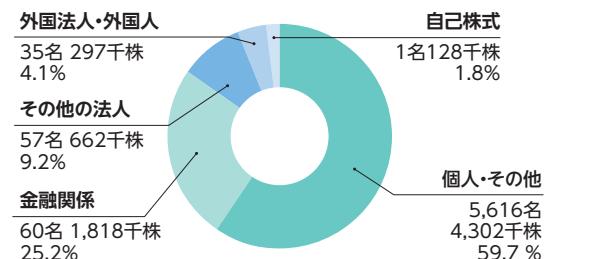
発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	7,210,000株
単元株式数	100株
株主数	5,769名 (前期末比583名減)

### 大株主の状況

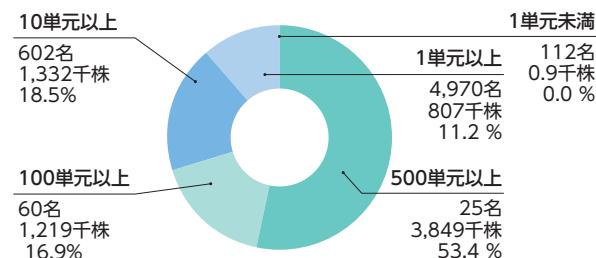
株主名	持株数
カワタ 共伸 会	758,300株
(株)三菱UFJ銀行	351,000
高塚 雅博	350,000
カワタ 従業員 持株 会	313,180
高塚 順	150,000
川田 昌美	149,442
川田 修弘	144,774
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	134,800
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	120,400
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	111,000

(注) 上記のほか、自己株式が128,221株あります。

### 所有者別分布表



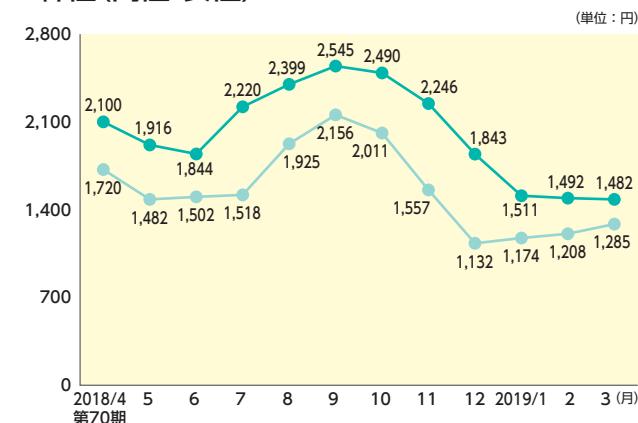
### 所有株式数別分布表



## 株式情報

### 株価チャート

#### 株価(高値・安値)



#### 株式出来高



### 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月中
基準日	定時株主総会 3月31日 剰余金の配当 期末 3月31日 中間 9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 ☎0120-094-777 (通話料無料)

公告方法	電子公告 ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
------	--

当社ホームページ  
(<http://www.kawata.cc/>)に掲載

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

- (ご注意) 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。